

TAC

1級建築施工技士

一次検定 → 二次検定へ

コネクト セミナー ～「覚える」から 「書ける」へ～



担当

松島 怜香 講師

過去動画

1級建築施工管理技士 TAC

二次検定の
全体像がわかる
記述対策の始め方



担当 松島 怜香 講師 1:19:11

1級建築施工管理技士 TAC

既受験者向け
やることは3つ
2026年度
二次検定合格戦略セミナー



担当 松島 怜香 講師 52:21

検索	TAC	建築施工
----	-----	------



今日の内容

一次の知識は、
二次にどうやって出てくる？

+ 講座紹介

第1問

施工管理 **記述**

32点

6割 19.2点

68点中
+ その他 **6割** 40.8点

第2問

仮設安全

3問（各2つ**記述**）

6×2点= **12点**

第3問

工程管理

6問（**計算**）

6×2点= **12点**

第4問

施工留意事項

4問（各2つ**記述**）

8×2点= **16点**

第5問

穴埋め

8問（**五肢択一**）

8×2点= **16点**

第6問

法規

6問（**五肢択一**）

6×2点= **12点**

問題 6 法規

建設 業法

[R3-66②]元請負人は、請負代金の出来形部分に対する支払を受けたときは、当該支払の対象となった建設工事を施工した下請負人に対して出来形部分に相応する下請代金を、当該支払を受けた日から~~50日~~**1月**以内で、かつ、できる限り短い期間内に支払わなければならない。

[R6-65③]元請負人は、下請負人に対する下請代金のうち労務費に相当する部分については、現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。

令和5年度 問題

1. 建設業法（下請代金の支払）

第24条の3 元請負人は、請負代金の出来形部分に対する支払又は工事完成後における支払を受けたときは、当該支払の対象となった建設工事を施工した下請負人に対して、当該元請負人が支払を受けた金額の出来形に対する割合及び当該下請負人が施工した出来形部分に相応する下請代金を、当該支払を受けた日から以内で、かつ、できる限り短い期間内に支払わなければならない。

2 前項の場合において、元請負人は、同項に規定する下請代金のうちに相当する部分については、現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。

①	① 10日	② 20日	③ 1月	④ 3月	⑤ 6月
---	-------	-------	------	------	------

②	① 労務費	② 交通費	③ 材料費	④ 事務費	⑤ 諸経費
---	-------	-------	-------	-------	-------

問題 6 法規

安衛法

[R6-69①]事業者は、建設業の事業場において新たに職務に就くこととなった~~作業主任者~~に対し、
作業方法の決定及び労働者の配置に関する事項について、安全又は衛生のための教育を
行なわなければならない。
作業主任者を除く

平成 29 年度 問題

事業者は、その事業場が建設業に該当するときは、新たに職務につくこと
となった職長その他の作業中の労働者を直接 又は監督する者（作業主
任者を除く。）に対し、次の事項について、厚生労働省令で定めるところによ
り、安全又は衛生のための教育を行なわなければならない。

- 一 作業方法の決定及び労働者の配置に関すること
- 二 労働者に対する 又は監督の方法に関すること
- 三 前二号に掲げるもののほか、 を防止するため必要な事項で、厚
生労働省令で定めるもの

⑤	指導	⑥	労働災害
---	----	---	------

（労働安全衛生法60条）

問題 6 法規

建築 基準法 施行令

木造の建築物で高さが13m若しくは $\square$ ③が9 mを超えるもの又は木造以外の建築物で2以上の階数を有するものについて、建築、修繕、模様替又は除却のための工事を行う場合においては、工事期間中工事現場の周囲にその地盤面（その地盤面が工事現場の周辺の地盤面より低い場合においては、工事現場の周辺の地盤面）からの高さが $\square$ ④m以上の板塀その他これに類する仮囲いを設けなければならない。

ただし、これらと同等以上の効力を有する他の囲いがある場合又は工事現場の周辺若しくは工事の状況により危害防止上支障がない場合においては、この限りでない。

③	軒の高さ	④	1.8
---	------	---	-----

(建築基準法施行令136条の2の20)

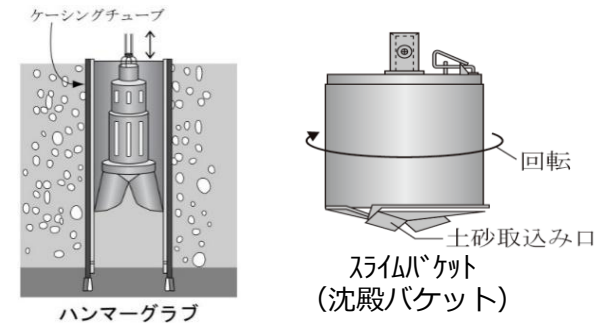
**問題 6 法規は
建設業法・安衛法は見たことある
基準法は、仮設計画や施工計画に近い**

問題5
択一

躯体

[R4-24③]オールケーシング工法における孔底処理は、孔内水がない場合やわずかな場合には
○ハンマーグラブにより掘りくずを除去した。

- ・掘削：ハンマーグラブでつまんで出す
- ・一次処置：水ない→ハンマーグラブで静かに水or沈殿物 多→+スライムバケットで処理
- ・二次処理：サクションポンプor水中ポンプ吸上げ→コンクリート打設直前



令和4年度 問題

3. 場所打ちコンクリート杭地業のオールケーシング工法において、地表面下
a m程度までのケーシングチューブの初期の圧入精度によって以後の
掘削の鉛直精度が決定される。

掘削はbを用いて行い、一次スライム処理は、孔内水が多い場合には、
cを用いて処理し、コンクリート打込み直前までに沈殿物が多い場合には、
二次スライム処理を行う。

	a	b	c
①	10	ハンマーグラブ	沈殿バケット
②	5	ハンマーグラブ	沈殿バケット
③	5	ドリリングバケット	底ざらいバケット
④	10	ドリリングバケット	沈殿バケット
⑤	5	ハンマーグラブ	底ざらいバケット

問題5 択一 躯体

✕[R4-24③]暑中コンクリートの荷卸し時のコンクリート温度は、~~40℃~~^{35℃}以下とした。

○[R3-26①]外気温が25℃を超えていたため、練混ぜ開始から打込み終了までの時間を90分以内とした。

令和4年度 問題

7. コンクリート工事において、暑中コンクリートでは、レディーミクストコンクリートの荷卸し時のコンクリート温度は、原則として□a□℃以下とし、コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、□b□分以内とする。

打込み後の養生は、特に水分の急激な発散及び日射による温度上昇を防ぐよう、コンクリート表面への散水により常に湿潤に保つ。

湿潤養生の開始時期は、コンクリート上面ではブリーディング水が消失した時点、せき板に接する面では脱型□c□とする。

外気温	練混ぜから打込み終了までの時間	打重ね時間の間隔
25℃未満	120分以内	150分以内
25℃以上	90分以内 R3・5	120分以内 R1

湿潤養生（初期養生）

- ・水分維持：透水性 小さい せき板、水密シート→**打設打ち上げ後**
- ・水分供給：散水or 噴霧→**凝結終了後**
- ・水分逸散防止：膜養生、浸透性養生剤→**ブリーディング終了後**

期間 (コンクリート中の水が分離して、浮き上がってくる現象)

- ・普通ポルランド：5日以上
- ・早強ポルランド：3日以上
- いずれも 10N/mm²以上**で打ち切りOK

温度 打込み中、打込み後 5日間以上 2℃以上（早強3日以上）

- ・5日間：乾燥・振動等からも養生（少なくとも1日は作業NG、軽作業まで）

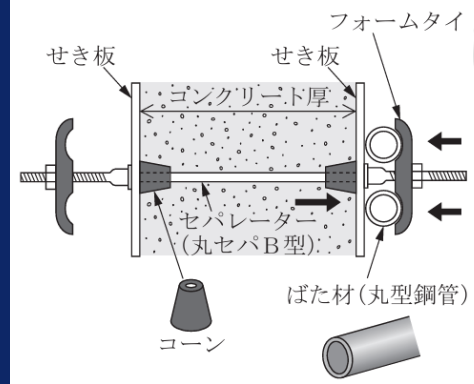
	a	b	c
①	30	90	直 後
②	35	120	直 前
③	35	90	直 後
④	30	90	直 前
⑤	30	120	直 後

問題5 択一 躯体

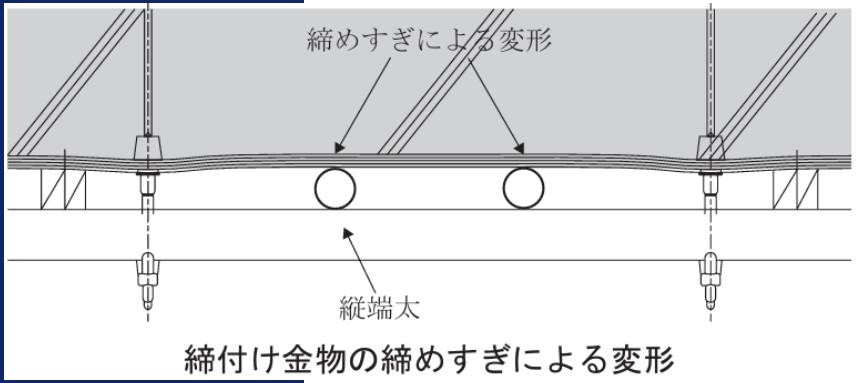
令和4年度 問題

6. 型枠組立てに当たって、締付け時に丸セパレーターのせき板に対する傾きが大きくなると丸セパレーターの a 強度が大幅に低下するので、できるだけ垂直に近くなるように取り付ける。

締付け金物は、締付け不足でも締付け過ぎでも不具合が生じるので、適正に使用することが重要である。締付け金物を締め過ぎると、せき板が b に変形する。



締付け金物の締付け過ぎへの対策として、内端太（縦端太）を締付けボルトとできるだけ c 等の方法がある。



	a	b	c
①	破断	内側	近接させる
②	圧縮	外側	近接させる
③	破断	外側	近接させる
④	破断	内側	離す
⑤	圧縮	外側	離す

もちろん、1次では出題のなかった範囲からの問題もある

問題 5 択一は 「数字・大小関係」が 狙われやすい

択一の問題が作りやすいのよ

問題4 記述 仕上

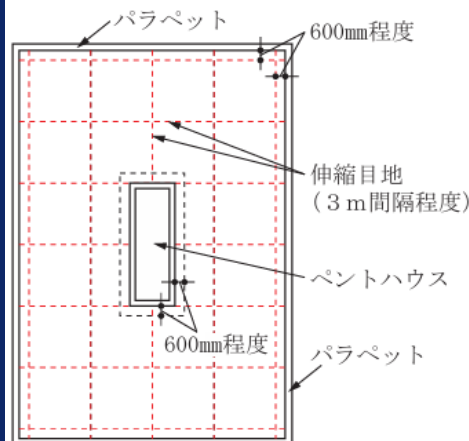
[R3-58④]保護コンクリート内の溶接金網は、線径6.0mm、網目寸法100mmのものを敷設した。

[R3-58⑤]保護コンクリートの伸縮目地は、パラペット周辺などの立上り際より600mm離れた位置から割り付けた。

令和4年度 問題

1. 屋根保護防水断熱工法における保護層の平場部の施工上の留意事項を2つ、具体的に記述しなさい。

なお、防水層はアスファルト密着工法とし、保護層の仕上げはコンクリート直均し仕上げとする。

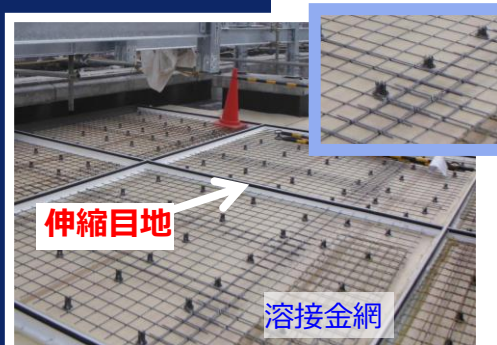


ひび割れ防止のため網目寸法100mm程度の溶接金網を敷き込み、その重ね幅は、網目の1節半以上かつ150mm以上とする。

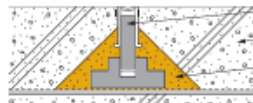
伸縮目地は、パラペット等立上がり部の際から600mm程度、中間部は縦横3m程度の間隔に設ける。

<他の解答例>

- ・保護層とするコンクリートの厚さは、こて仕上げの場合は80mm以上とし、所定の勾配をとる。
- ・伸縮目地の深さは、保護コンクリート表面から、防水層上面の絶縁用シートに達するまでとする。
- ・絶縁用シートは、ポリエチレンフィルム（厚さ0.15mm程度）を用い、重ね幅100mm程度、立上がり面は30mm程度張り上げるようにして平場に敷き並べる。



重ね幅：
1節半以上
かつ 150mm以上



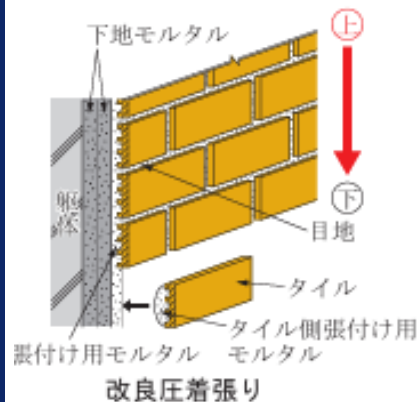
問題4 記述 仕上

[R6-55⑤]改良圧着張りの張付けモルタルは、下地面に対する塗付けを2度塗りとし、その合計の塗厚を5mmとした。

平成30年度 問題

4. 外壁下地モルタル面に小口タイルを改良圧着張りとする場合の、施工上の留意事項を2つ、具体的に記述しなさい。

ただし、下地清掃、張付けモルタルの調合、タイルの割付け及びタイル面洗いに関する記述は除くものとする。



張付けモルタルを下地面には2度塗り、合計塗厚4～6mmとし、タイル裏面には厚さ1～3mm程度に塗る。

目地割りに基づき、水糸を引き通し、窓や開口まわり、入角出角の役物を先に張り付ける。

<他の解答例>

- ・モルタルの塗付け面積の限度は、触れると指にモルタルが付く状態のままタイル張りが完了できることとし、2㎡/人以内とする。

改良圧着張り

- ・下地モルタル面側+タイル裏面の両面に張付けモルタル
- ・下地面：2度塗り 合計塗り厚4～6mm
- ・タイル裏面：塗り厚1～3mm程度
- ・塗付け面積限度：
→触れると手に付く状態でタイル張り完了
→2㎡/人以内

問題 4 施工上の留意事項（記述）は
オリジナルでなくてOK
「文章」で覚えるのではなく、
「施工手順」をイメージして覚えよう

準備しておけばだいじょうぶ

問題3 ネットワーク工程は 計算練習しかない

一次でやった定義系は問われない

問題2
記述仮設
災害
防止

建築工事における次の1.から3.の災害について、施工計画に当たり事前に検討した事項として、災害の発生するおそれのある状況又は作業内容と災害を防止するための対策を、それぞれ2つ具体的に記述しなさい。

ただし、解答はそれぞれ異なる内容の記述とする。また、保護帽や要求性能墜落制止用器具の使用、朝礼時の注意喚起、点検や整備などの日常管理、安全衛生管理組織、新規入場者教育、資格や免許に関する記述は除くものとする。

1. 墜落、転落による災害
2. 崩壊、倒壊による災害
3. 移動式クレーンによる災害

災害防止 テーマ2	墜落・転落災害	
	飛来・落下災害	
	崩壊・倒壊災害	
	重機関連災害	
	車両系建設機械による災害	
	電気による災害	

問題2 記述

仮設

【墜落・転落災害】

- [R5-52④]脚立を使用した足場における足場板は、踏さん上で重ね、その重ね長さ20cm以上とした。
- [R6-47④]移動式足場の作業床の周囲は、高さ90cmで中棧付きの丈夫な手すり及び高さ10cmの幅木を設置した。

【飛来・落下災害】

- [H27-67④]単管を使用した本足場における作業床は、幅を40cm以上、床材間のすき間を3cm以下とした。
- [H28-67④]つり足場の作業床は、幅を40cm以上とし、かつ、隙間がないようにした。

【崩壊・倒壊災害】

- [H28-67①]高さが20mを超える枠組足場の主枠間の間隔は、けた行方向1.85m以下とする。
- [H28-67③]高さが5m以上の枠組足場の壁つなぎの間隔は、垂直方向9m以下、水平方向8m以下とする。
- [R2-67④]高さが8mのくさび緊結式足場の壁つなぎは、垂直方向5m、水平方向5.5mの間隔とした。

問題2 記述 仮設

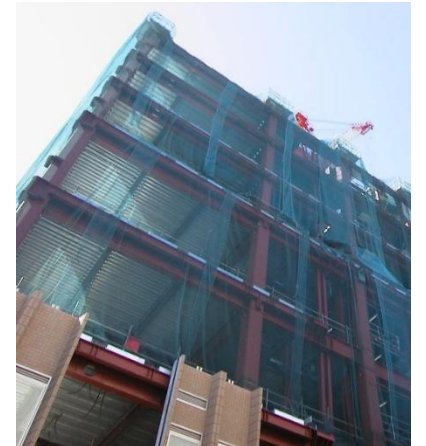
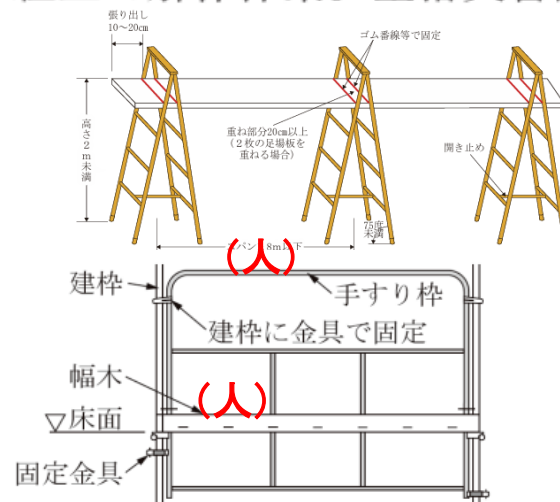
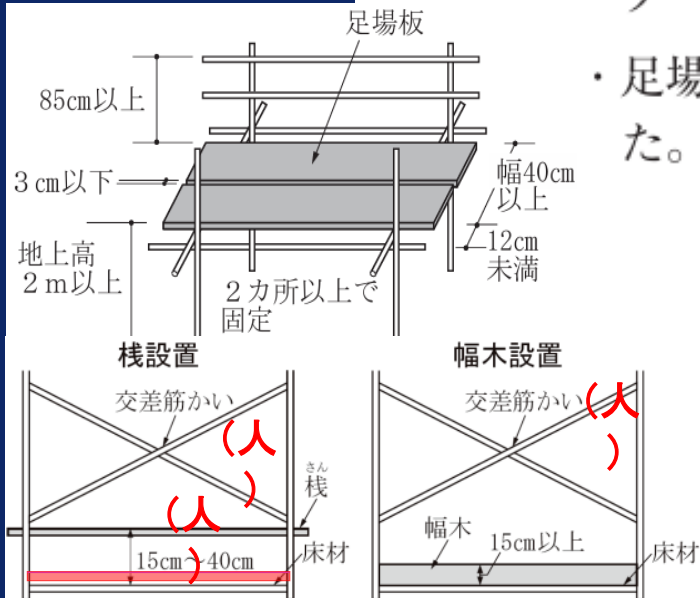
1. 墜落、転落による災害

脚立足場での天井仕上げ作業。転落防止のため、足場板のはね出しは^{10cm以上}20cm以下、3点支持とし堅固に固定する計画とした。

外部足場における仕上げ作業及び資機材の運搬作業。足場作業床からの墜落防止のため、手すりと中棧を設ける計画とした。

<他の解答例>

- ・鉄骨工事における建方・本締め作業。墜落防止のため、水平ネットを各層に設置する計画とした。
- ・エレベーター周辺部の室内仕上げ作業及び作業員通行。墜落防止のため、エレベーター工事に着手するまで、昇降路開口部に仮設デッキを敷き込む計画とした。
- ・足場の組立て解体作業。墜落災害防止のため、手すり先行工法を採用する計画とした。



問題 2 仮設は 作業内容と対策を リンクさせよう

「何のために対策がされているのかな」が、大切

問題 1 記述

現場 作業 の 軽減策

- ① 工種名又は作業名等
- ② あなたが考える有効な現場作業の軽減策とそれが現場作業の軽減に繋がる理由
- ③ ②の実施に当たって確保すべき品質とそのための軽減策における施工上の留意事項

対策前の作業に「どんな大変なこと」があって、
対策後の作業は「何が楽になるか」
その対策をとることで「品質は守られますか？」
品質を守るために「何に注意して施工しますか？」

が聞かれてる。

【現場作業の軽減策】

既成杭（溶接継手→機械式継手）、地盤アンカー工法、圧接工事→機械式継手、先組み（地組み）
基礎型枠 在来→ラス網、ハト小屋 在来→既製品、デッキスラブ、軽量支保梁（ビーム）、鋼製型枠
耐火被覆巻付け工法、アスファルト防水→改質アスファルト防水、LGS、PBのプレカット、
モルタル金罫下地→セルフレベリング工法、乾式石張り、ECPの工場塗装、タイル工場張り、
足場のブロック組立て/解体、高所作業車、、、、

問題 1

記述

対策

記述

【現場作業の軽減策】

既成杭（溶接継手→機械式継手）、地盤アンカー工法、圧接工事→機械式継手、先組み（地組み）基礎型枠 在来→ラス網、ハト小屋 在来→既製品、デッキスラブ、軽量支保梁（ビーム）、鋼製型枠耐火被覆巻付け工法、アスファルト防水→改質アスファルト防水、LGS、PBのプレカット、モルタル金網下地→セルフレベリング工法、乾式石張り、ECPの工場塗装、タイル工場張り、足場のブロック組立て/解体、高所作業車、、、、

- [R5-24①] トルク方式のねじ節継手とは、カップラーを用いて鉄筋を接合する工法で、ロックナットを締め付けることで鉄筋とカップラーとの間の緩みを解消する。
- [H30-26②] 充填継手とは、内面に凹凸のついた比較的径の大きい鋼管（スリーブ）に異形鉄筋の端部を挿入した後、スリーブ内に高強度の無収縮モルタル等を充填して接合する工法である。
- [H27-48④] 型枠工事において、工期短縮のため基礎型枠は、せき板の解体が不要なラス型枠工法とする計画とした。
- [H26-55①] 鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上9階建ての事務所ビルにおいて、スラブ型枠には、床型枠用鋼製デッキプレートを採用することは工期短縮になる。
- [R1-27②] スラブ型枠の支保工に軽量型支保梁を使用する場合、支保梁の中間部を支柱で支持してはならない。
- ✗ [R4-42③] 鉄骨工事において、施工中の粉塵の飛散をなくし、被覆厚さの管理を容易にするため、耐火被覆を~~ロックウール吹付け工法~~とする計画とした。 **巻付け工法**

問題 1

記述

対策

記述

3 工程短縮

- ① 算出した工期が指定工期を超える場合は、クリティカルパス上の作業について、作業方法の変更（作業の同期化・分割・集約化等）、作業員（労働力）の増員、工事用機械の機種変更・台数増加、工法の変更を検討し、工期短縮に向けた調整を行います。
- ② 工程短縮を図るために行う工区分割などは、工程の短縮・調整により生じる負荷が特定の専門工事業者等に集中せず、負荷ができるだけ均等になるように調整します。H30・R2
- ③ **プレキャスト（PCa）化** 工場生産により現場の作業を省く工法で、手すり壁付きのバルコニーなどの部材を検討します。R3
- ④ **先組み工法** 鉄筋の先組み工法は、鉄筋をあらかじめ組み上げ、クレーン等により建て込む方法で、作業効率が高く工期短縮が図れます。
- ⑤ **水平積上げ方式** 節ごとに建方を行っていく水平積上げ方式は、一般に工期短縮効果があります。
- ⑥ **逆打ち工法** 地上と地下が同時平行に進めることができ、全体工期の短縮に大きな効果があります。ただし、地下 1 階程度の工事の場合は工期短縮には結びつきません。R2
- ⑦ **ラス型枠工法** 合板の代わりに特殊リブラス（鋼製ネット）を用いたせき板で、その解体が不要となるため、施工の省力化、工期短縮が可能で、地中梁や基礎に多く用いられます。
- ⑧ **床型枠用鋼製デッキプレート（フラットデッキ）** 捨て型枠のため解体が不要で、工期短縮につながります。
- ⑨ **ALCパネル、ECPパネル**の採用。
- ⑩ **タイル打込みハーフPC板**の採用。工場生産されたタイル打込み完了パネルであり、工期短縮につながります。
- ⑪ **システム天井** 工期短縮につながります。

問題1 対策 記述は 何が軽減されるのか 何に気を付けて施工するのか を、肉付けしていこう

いろんな話がつながってるんです

2026年合格目標

二次対策本科生

全14回

2.5時間／1回



一般教育訓練給付制度対象コースです

条件を満たして修了した場合、受講料の一部が支給される制度です。詳細は「教育訓練給付制度パンフレット」をご覧ください。



2025年
12月

早期学習

Web

■ 施工管理入門 ————— 全6回

2026年
8月

本講義

- 第1問対策(施工管理記述) ——— 全4.5回
- 第3問対策(ネットワーク工程表)- 全1.5回
- 第2問対策(仮設・安全) ————— 全2回
- 第4問対策(躯体・仕上)※ ——— 全2回
- 第5問対策(躯体・仕上)※ ——— 全2回
- 第6問対策(法規) ————— 全1回
- ※第4-5問対策は、出題傾向より隔年に入れ替わり
- 添削課題 ————— 全3回

9月

10月

直前テスト・解説

10/18 本試験

新宿校

午後1	13:30~16:00
午後2	16:30~19:00
夜	19:00~21:30

日曜

平日(月・木)

なんば校

午後1	13:00~15:30
午後2	16:00~18:30

日曜

【開講】

新宿・なんば(日曜) → 8/23
新宿(平日) → 8/24 月, 27 木

学習メディア	通常受講料		一次生割引		再受講割引	
	コースNo.	受講料	コースNo.	受講料	コースNo.	受講料
教室講座	267-201	¥ 99,000	267-203	¥ 88,000	267-207	¥ 69,300
ビデオブース講座		¥ 99,000		¥ 88,000		¥ 69,300
Web通信講座	267-204	¥ 99,000	267-206	¥ 88,000	267-208	¥ 69,300

一次生割引

一次対策本科生の方が追加申込

通常受講料より

¥11,000

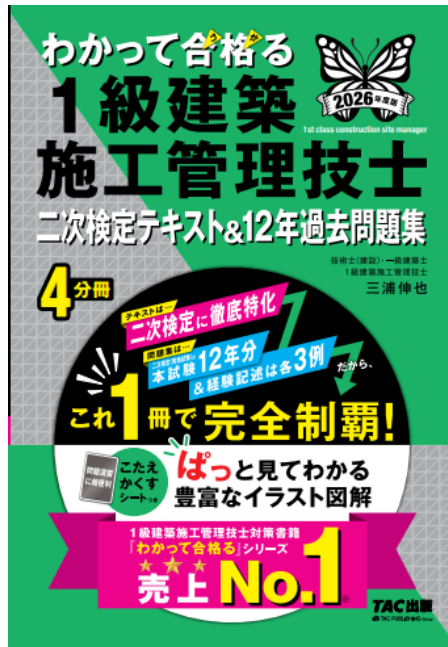
通常受講料より

30%

割引

割引

使用教材



問題2

本試験問題

平成26年度 問題

建築工事現場において、次の3つの災害について、施工計画にあたり事前に検討した災害の発生するおそれのある作業の内容とそれを防止するための対策を、それぞれ2つずつ具体的に記述しなさい。

ただし、解答はそれぞれ異なる内容の記述とし、要求性能墜落制止用器具や保護帽の着用、朝礼時の注意喚起、点検・整備などの日常管理、安全衛生管理組織、新規入場者教育に関する記述は除くものとする。

1. 墜落災害
2. 崩壊・倒壊災害
3. 重機関連災害

平成26年度 解答例

1. 墜落災害

仮設開口を利用した荷揚げ作業。墜落防止のため、手すり、中横を設ける計画とした。

鉄骨建方における柱、梁などの鉄骨部材取付け作業。墜落防止のため、手すり支柱、親綱をあらかじめ鉄骨に取り付ける計画とした。

<他の解答例>

- ・鉄骨工事にともなう建方・本締め作業。墜落防止のため、水平ネットを各層に設置する計画とした。
- ・エレベーターシャフト内でのエレベーター設置作業。暗がりによる足場からの墜落防止のために、十分な照度を得られる仮設照明設備を設けた。
- ・エレベーター周辺部の室内仕上げ作業及び作業員通行。墜落防止のため、エレベーター工事に着手するまで、昇降路開口部に仮設デッキを敷き込む計画とした。
- ・脚立足場での天井仕上げ作業。脚立足場からの墜落防止のため、足場板のはね出しは20cm以下、3点支持とし堅固に固定する計画とした。
- ・外部足場における仕上げ作業及び資機材の運搬作業。足場作業床からの墜落防止のため、手すりや中横を設ける計画とした。
- ・足場の組立て解体作業。足場からの墜落防止のため、手すり先行工法を採用する計画とした。

2. 崩壊・倒壊災害

[崩壊災害]

山留め及び山留め支保工を設けた掘削作業。山留めの崩壊防止のため、支保工の軸力と山留め壁の変形を常時測定する方法、異常時の対処方法を検討・計画した。

山留めを設けない掘削作業。地山の崩壊防止のため、地質に適した法面の勾配と排水路を計画した。

<他の解答例>

- ・親杭横矢板による山留めを設けた掘削作業。横矢板部分の土砂崩壊防止のため、横矢板は掘削後すみやかに設置する手順・工程計画とした。

[倒壊災害]

強風時における足場上での作業。足場の倒壊防止のため、風荷重を低減できるメッシュシートとし、十分な安全率を見込んで壁つなぎを計画した。

足場の組立て作業。足場の倒壊防止のため、足場設置地盤の転圧、敷板とベース金物の釘止め、根がらみの設置を行う計画とした。

<他の解答例>

- ・鉄骨建方作業。強風による鉄骨の倒壊防止のため、強風時の自立検討を行い、倒壊防止ワイヤを各ブロックの本締め完了まで緊張させたままとする計画とした。
- ・型枠上でのコンクリート打設作業。型枠支保工が3.5mを超えるパイプサポートを使用する場合、倒壊防止のため高さ2m以内ごとに2方向に水平つなぎを設ける計画とした。
- ・建物内部改修工事のコンクリートブロック壁解体作業。壁の倒壊が生じないように、安全な作業方法・手順を検討し計画書を作成した。

3. 重機関連災害

クレーンによる資機材の揚重・運搬作業。吊り荷の落下災害防止のため、作業半径内への関係者以外立入り禁止、荷の直下への作業員立入り禁止を計画した。

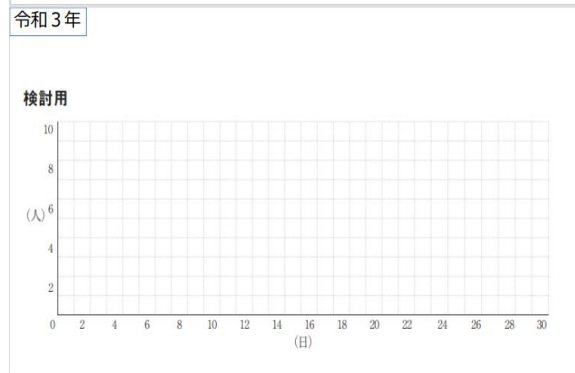
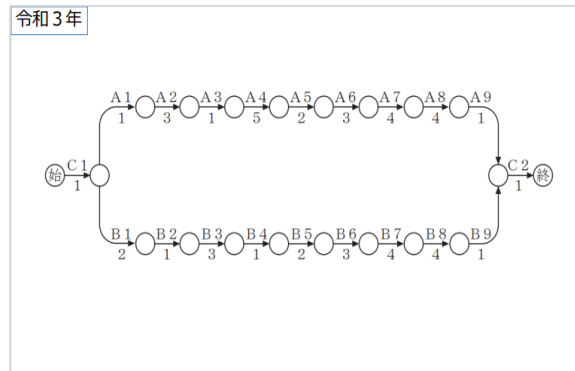
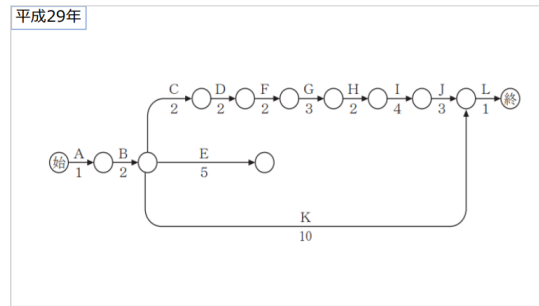
ポンプ車を使用するコンクリート打設作業。ポンプ車の作業装置操作者とホース先端保持者との連携不足による災害を防止するため、無線連絡装置を計画した。

<他の解答例>

- ・バックホウを使用する掘削作業。バックホウ旋回中の作業員への接触事故を防ぐため、バリケード等による旋回範囲内への立入り禁止措置を計画した。
- ・クレーンによる鉄骨部材の揚重作業。トラッククレーンの転倒事故を防止するため、敷き鉄板を敷いて、アウトリガーを張り出して足元を固める計画とした。

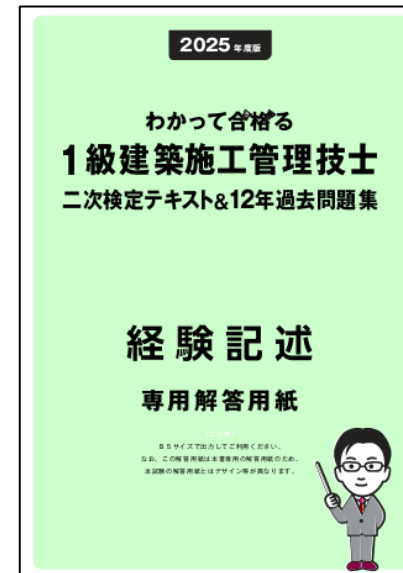
使用教材

ネットワーク工程表 計算練習用



計算練習するのに書くのが面倒、、、
を解消！

経験記述 練習用紙



テーマ1 建設副産物対策

平成24年度 (問題と本巻20ページ)

[工事概要]

イ. 工事名 _____

ロ. 工事場所 _____

ハ. 工事の内容 _____

平成24年度

(2)

①	副産物対策	
②	工事名等	
③	実施内容	
④	結果と評価	

(3)

①	副産物対策	
②	工事名等	
③	実施内容	
④	結果と評価	

2

(1)

選考問題	
取り組むべき事項	

(2)

選考問題	
取り組むべき事項	

各年度3回記述練習ができます

使用教材

躯体工事 『穴埋め問題集』

【土工事】

H24

地下水処理工法におけるディープウェル工法やウェルポイント工法などの排水工法は、地下水の揚水によって水位を必要な位置まで低下させる工法であり、地下水位の低下量は、①や地盤の②によって決まる。

必要揚水量が非常に多い場合、対象とする帯水層が深い場合や帯水層が砂礫層である場合には、③工法が採用される。

①揚水量 ②透水性 ③ディープウェル

H26 H30 R6

根切り工事において、掘削底面付近の砂質地盤に上向きの浸透流が生じ、この水の浸透力が砂の水中での有効重量より大きくなり、砂粒子が水中で浮遊する状態を①という。①が発生し、沸騰したような状態でその付近の地盤が崩壊する現象を②という。

掘削底面やその直下に難透水層があり、その下にある被圧地下水により掘削底面が持ち上がる現象を③という。

①クイックサンド ②ボイリング ③盤ぶくれ

※仕上工事版もあります

法規 『穴埋め問題集』

テキストに無い
+ @の法文も掲載

【仮囲い】

第136条の2の20 木造の建築物で高さが[]メートル若しくは軒の高さが[]メートルを超えるもの又は木造以外の建築物で[]以上の階数を有するものについて、[]、[]、[]又は[]のための工事（以下この章において「建築工事等」という。）を行う場合においては、工事期間中工事現場の周囲にその地盤面（その地盤面が工事現場の周辺の地盤面より低い場合においては、工事現場の周辺の地盤面）からの高さが[]メートル以上の板塀その他これに類する[]を設けなければならない。ただし、これらと同等以上の効力を有する他の囲いがある場合又は工事現場の周辺若しくは工事の状況により危害防止上支障がない場合においては、この限りでない。

【根切り工事、山留め工事等を行う場合の危害の防止】

第136条の3 建築工事等において根切り工事、山留め工事、ウェル工事、ケーソン工事その他基礎工事を行なう場合においては、あらかじめ、地下に埋設されたガスパイプ、ケーブル、水道管及び下水道管の[]による危害の発生を防止するための措置を講じなければならない。

2 建築工事等における地階の[]工事その他の深い[]工事（これに伴う山留め工事を含む。）は、地盤調査による[]及び[]の状況に応じて作成した施工図に基づいて行なわなければならない。

3 建築工事等において建築物その他の工作物に近接して根切り工事その他土地の掘削を行なう場合においては、当該工作物の基礎又は地盤を[]して構造耐力の

※全文表示版（答え）あります

デジタル添削 について 提出も返却も、WEBで！

評価：合格圏
ボーダーライン
努力圏

- ◆ より良くするために
- ◆ て・に・を・は / 接続詞 / 語尾
- ◆ 要件不足カ所「解答のヒント」
- ◆ 再構成（文章の組み換え）
→修正カ所の具体案
- ◆ 学習アドバイス
など...

添削課題 3 回

2025年合格目標 TAC1級建築施工管理技士 二次検定対策
第一問対策 添削課題 答案用紙 合理化

第1回
添削提出用

会員番号(10ケタ)
氏 名 か な
氏 名
誕生日の月日
※当答案使用許可の可否(氏名を記入しない限り管理教材・模試で使用してもよろしいでしょうか?) (可)・不可

QRコード
6656600100110
ボーダーライン
ト(1)を直したら合格圏

(1)

①	工種名又は作業名等	内装工事 下地
②	現場作業の軽減策と軽減に繋がる理由	内装石のボードは、現場加工で施工するよりも、工場でのプレカット品を使用する方が、現場での切断加工工程が不要となるため。 輸送・搬入・保管時に破損・汚損を防止するため、プレカット品の取付位置を正確に施工する。
③	確保すべき品質と施工上の留意事項	破損・汚損はわかるが、張付け位置間違いは「確保すべき品質」か？もしこれで書くのならば、『計画通りの割付け施工を確保すべき品質とする。張付け位置を間違えると、材料不足や不要な現場加工が発生するため、間配りと施工手順の周知確認に留意する。』でしようか。若干くるしい？他参考 p632 解答例3 (1)

「される、させる」というのが変。
施工をするのは職人さんだが、その指示出し、取り直しをするのは自分です。

(2)

①	工種名又は作業名等	鉄筋工事 式(略さない)
②	現場作業の軽減策と軽減に繋がる理由	鉄筋を圧入機から、手作業で挿入変更し、講習を受けた者であれば施工可能であり、大規模な施工の影響を受けなかった。
③	確保すべき品質と施工上の留意事項	鉄筋の性能を確保する品質と、スクリュー位置での鉄筋の締め付けと、ラフトの交換状態が分かる、全数確認に留意する。

つづき「破損・汚損」で書く場合も、では「破損・汚損」が、確保すべき品質にどうかかわってくる？ということをきいている。(こういうこと)

(3)

①	工種名又は作業名等	型枠工事
②	現場作業の軽減策と軽減に繋がる理由	基礎型枠工事を従来の型枠工法から、ラス型枠工法に変更し、型枠運搬・加工工程を省かれています。解体も不要となるため。
③	確保すべき品質と施工上の留意事項	躯体の変形防止を確保する品質と、躯体の配筋位置や側圧が同大となる箇所は、型枠の取付・打設中の、型枠の崩壊・変形を防止する。

※誤字に注意！！小さい減点もチリツモです。 変形 箇

※「理由」を問かれたら、どんな場合も「～ため」で答えましょう

① 時間外労働を増長させていた要因とそれが時間外労働の増長に繋がっていた理由
職人の高齢化による熟練者の不足や、若手職人の業界離れ、新規参入の減少が原因で、人手不足になったため、時間外労働が増え、人手不足から一人が抱える労働負担が増えたため。(or) 人手不足になったため。(でもOK)

② ①の対策として、有効と考える建設現場における組織としての取組や工夫
右チリ倒れに、建設業が魅力的な産業として選ばれるよう、現場見学会やSNSを活用し、業界の魅力を発信、最新技術の導入による作業環境の改善を行う。

さて、テキスト解答例をそのまま採用するのはOK。これからの学習方法として3Step紹介します。

【Step 1】この記述内容を暗記し、何も見ずに書けるようにする。

【Step 2】同じ内容(ネタ)で他年度への書き換えができるかを練習してみてください。これは、合理化だけでなく、品質管理も同じです。
例：今回取り上げた「内装下地、鉄筋、型枠」の工事で、品質管理の設問に答えるように書き換える(再構築し直す)

【Step 3】なにも見ずに、違う年度の設問に書き換えができるか

以上、やってみてください。 松島

早期学習

第1回 躯体工事の流れ
鉄筋工事→型枠工事→コンクリート工事

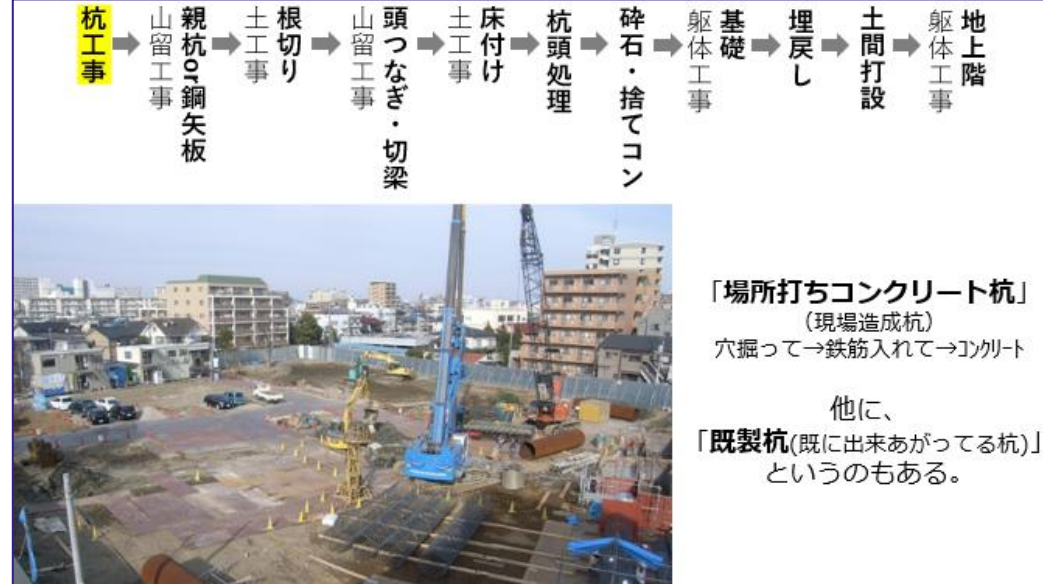
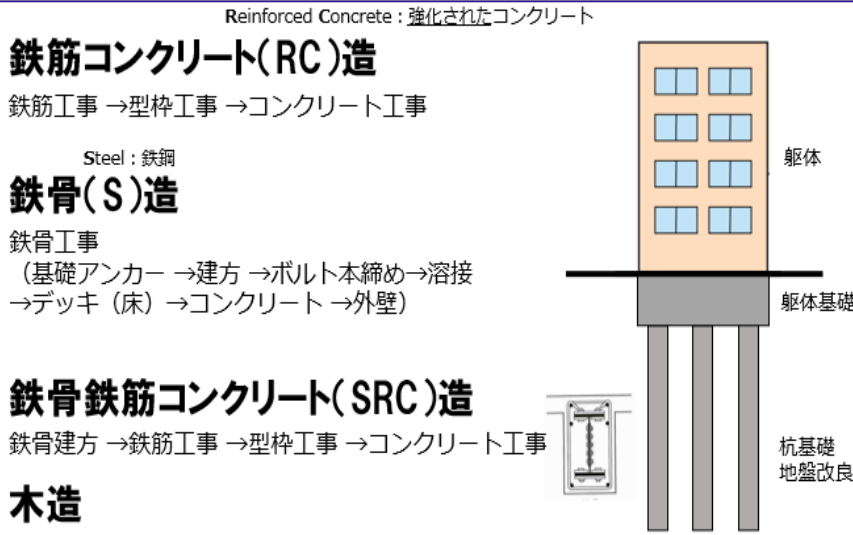
第2回 鉄骨工事、木造

第3回 地盤→土工事→山留工事→基礎・地業工事

第4回 仕上工事の流れ
防水→屋根→左官→タイル→石

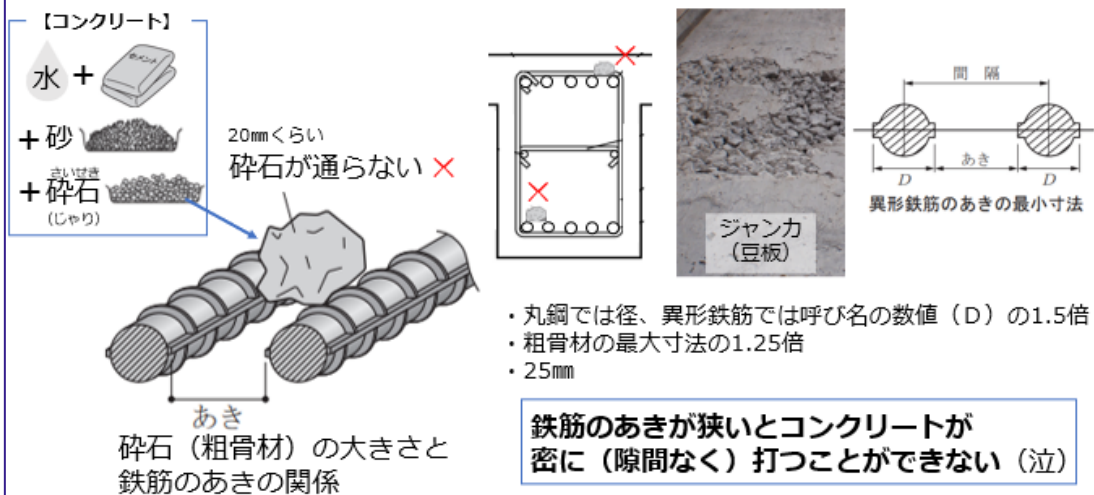
第5回 金属→建具→ガラス→内装

第6回 外装→塗装→内外装改修工事



鉄筋工事→型枠工事→コンクリート工事

材料・種類 / 部材名称 / 鉄筋の加工・組立て / あき寸法 / かぶり厚 / 定着 / 継手



鉄筋工事→型枠工事→コンクリート工事

○×問題

- × 梁主筋を柱にフック付き定着とする場合、定着長さは鉄筋末端のフックを含まない長さとする。
- ② 180°フック付き重ね継手の長さは、フックの折曲げ開始点間の距離とする。
- ③ D35以上の鉄筋には、原則として、重ね継手を用いない。
- × 梁の主筋を重ね継手としたため、隣り合う鉄筋の継手中心位置は、重ね継手長さの0.5倍ずらした。
- × 鉄筋の圧接部の加熱は、圧接端面が密着するまでは中性炎で行い、その後は還元炎で行う。

二次記述問題

鉄筋工事において、鉄筋の組立てを行う場合の施工上の留意事項を2つ、具体的に記述しなさい。
ただし、鉄筋材料、加工及びガス圧接に関する記述は除くものとする。

施工図、施工要領書に従い正しい位置に、継手長さ、定着長さ、相互のあき寸法が不足しないように組み立てる。

鉄筋の継手は応力の小さい位置に設け、1カ所に集中させず、千鳥になるよう相互にずらして配置する。

体験入学

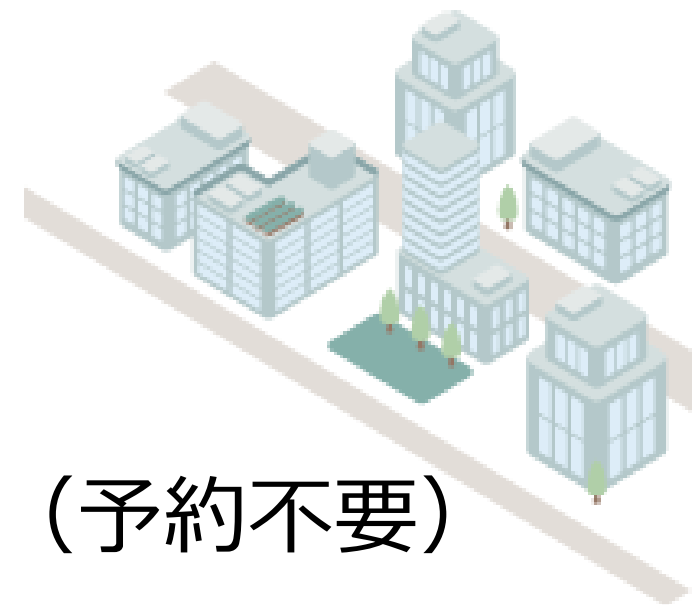
初回講義（経験記述1・第3問対策）

◆新宿校 8/23（日）13：30～16：00（予約不要）

8/24（月）19：00～21：30（同上）

◆なんば校 8/23（日）13：00～15：30（同上）

◆8/26（水）～ 全国のTAC校舎ブースにて視聴可能
（前日までに校舎に電話で予約。電話番号はホームページにて）



★「何となく知ってる」を「自信を持って書ける」へつなげる **準備講座**



資格の学校
TAC

2026年合格目標

1級建築施工管理技士講座

二次対策

**記述解法
プレ講義**

Web通信講座

7月開講

ゼロから学ぶ記述式解法

¥5,500 全1回

- ・工事概要から、「なんの合理化対策が書けるか」の読み取り
- ・合理化対策のストック(ネタ)を整理

→ 何が楽になる？ → 品質はどう守る？ → 何に注意する？

今から入って良いこと

早期学習 動画 **全6回** **すぐ**視聴可（約50分～1.5時間 /回）

→各工事の流れ、数値、管理項目の思い出し学習ができる

教材送付 通信生：**7/8** 発送

教室・ビデオブース生：各校舎で事前受け取り可

→先行して 問題2仮設、問題4,5,6 躯体・仕上・法規を進められる

記述解法プレ講義（オプション）
販売中 **¥5,500-**



→**7/1から配信開始！** 8月からの短期間では、問題1の記述が仕上がるか不安だから、なにか準備しておきたい

令和7年(2025年実施)

一級建築施工管理技士

二次検定

TAC本科生

カリキュラム修了者(通学・通信)*

合格率

【出席率80%以上&添削課題全3回提出】

90.6%

2026年4月現在



※本科生とは、目標年度の試験に合格するために必要な講義・答案練習・公開模試等をパッケージ化したコース（トータル本科生・二次対策本科生）を受講した方を指します。

※カリキュラム修了者とは、出席率80%以上かつ添削課題（全3回）を全て提出された方を指します。なお当合格率は上述のTAC本科生カリキュラム修了者85名中合格者77名の割合で算出しています（小数点第2位を四捨五入）。

過去の動画

検索

T A C

建築施工

2025 年度版 ↓



2026年度版
6月実施



4月実施



2026 問題 1 : 品質管理



2025 問題 1 : 合理化

まとめ

一次の知識は、二次にどうやって出てくる？

問題6 法規は、建設業法・安衛法は見たことある
基準法は、仮設計画や施工計画に近い

問題5 択一は、「数字・大小関係」が狙われやすい

問題4 施工上の留意事項（記述）は、
オリジナルでなくてOK

「文章」で覚えるのではなく、「施工手順」をイメージして覚えよう

問題3 ネットワーク工程は、計算練習しかない

問題2 仮設は、作業内容と対策をリンクさせよう

問題1 対策 記述は、
何が軽減されるのか・何に気を付けて施工するのかを、肉付けしていこう

お わ り

一次検定で身に着けた知識を、使えますか？
と確認するのが
二次検定

試験的に面接までは無いので、記述させることで判断するしかない
文章で人に伝える力が見られています。
だって、施工管理って
現場にいる多業種にわたる職人さん相手に
出来たものの品質を確認や
安全作業の計画・指揮をとっていく仕事ですからね。

問題 5

令和7年(2025年実施)

一級建築施工管理技士

二次検定

TAC本科生

カリキュラム修了者(通学・通信)*

合格率

【出席率80%以上&添削課題全3回提出】

90.6%

2026年4月現在



※本科生とは、目標年度の試験に合格するために必要な講義・答案練習・公開模試等をパッケージ化したコース（トータル本科生・二次対策本科生）を受講した方を指します。

※カリキュラム修了者とは、出席率80%以上かつ添削課題（全3回）を全て提出された方を指します。なお当合格率は上述のTAC本科生カリキュラム修了者85名中合格者77名の割合で算出しています（小数点第2位を四捨五入）。

問題 4 記述

仕上

- ④ [H29-34④]平場部のアスファルトルーフィング類の重ね幅は、縦横とも100mm程度とする。
- ① [R5-31①]アスファルト防水密着工法における平場部のルーフィングの張付けに先立ち、入隅は幅300mm程度のストレッチルーフィングを増張りした。
- ③ [R5-31③]アスファルト防水における立上り部のアスファルトルーフィング類は、平場部のアスファルトルーフィングを張り付けた後、150mm以上張り重ねた。
- ④ [R3-58④]保護コンクリート内の溶接金網は、線径6.0mm、網目寸法100mmのものを敷設した。
- ⑤ [R3-58⑤]保護コンクリートの伸縮目地は、パラペット周辺などの立上り際より600mm離れた位置から割り付けた。